

【ふれあいたいけん】

「かんとこのふれあい」や「きりたんぼなべづくり」に挑戦しよう

<世話人 柏谷敏郎>

「かんとこのふれあい」と「きりたんぼづくり」に挑戦しようをテーマに東北6県から約80名の本人大会参加者及び会員が秋田県総合保健センターに訪れました。

9時30分に近藤美奈子実行委員が、竿燈演技を披露してくれる秋田青年会議所の方々(若衆)と小中生(小若)の皆さん、ウェルビューいずみ障害福祉サービスセンターの皆さんをご紹介します、大会協力に謝辞をのべました。

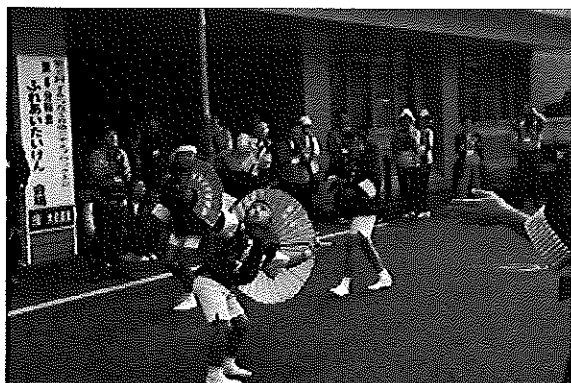
そのあと、演技者でもある木曾ウェルビューいずみ支援員から竿燈の由来をわかりやすく話してもらい、10時にさわやかな秋晴れのもと正面玄関前で演技披露です。見事な小若の皆さんの妙技に感動し参加者全員と、通りかかった多くの方々が「ジョヤサー、ジョヤサー！」の大連呼でした。

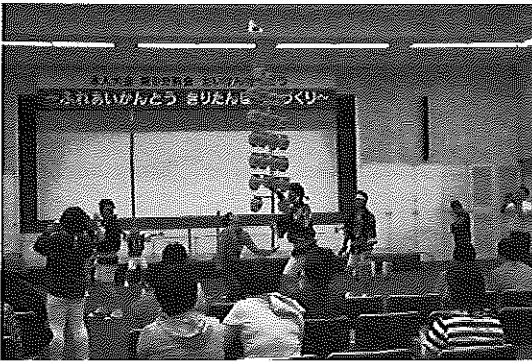
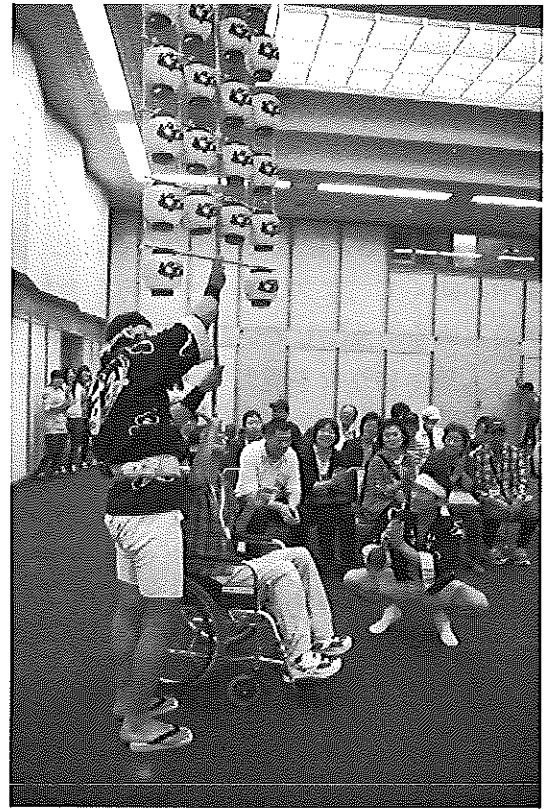
本人大会の参加者が更に目を輝かせたのは、演技者に手を支えてもらいながら、車いすの方も含め本人会の皆さん全員が頑張っている竿燈に挑戦していたときです。皆さんの一生の思い出となることでしょう。

11時から「きりたんぼ鍋づくり」に挑戦です。とはいっても、秋田名物の味は素人がおいそれと出せるものではありません。味つけは、秋田市手をつなぐ育成会の豊島弘子さんや有志の方々が早くから仕込んでくれました。参加者の皆さんは、秋田米で香ばしく出来た筒状のきりたんぼを自分の手でちぎり器に入れるだけでしたが、だからこそ本場の本物の味を堪能でき、皆さんお腹いっぱい至福の時を過ごすことができました。

最後は大会に力を注いでくれた皆様と、会場づくりや清掃等にご協力いただいた学生ボランティアの方々に全員でお礼を述べ散会となりました。

あきた せいねんかい ぎしよ 秋田青年会議所
あきた かんとうかい 小若の竿燈演技
こわか かんとうえんぎ





きりたんぽなべづくり

